



岸本周平
Kishimoto Shuhei
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>

<http://blog.goo.ne.jp/shu0712>

政策とドブ板

落選中の候補者は、政策スタッフまで雇うゆとりはありません。一方で、私自身は25年間、官僚や奥田経団連会長の政策スタッフとして政策を作る側にいましたし、今でも、中央大学の公共政策大学院で政策論を教えています。したがって、政策は最も得意な分野です。

ところが、候補者としてドブ板政治活動をしていると時間がいくらあっても足りません。人の情けを感じ、感謝の心を持ちながら、日々活動することは官僚時代にはなかったことです。人間修行と思い、積極的にドブ板をやっています。

たとえば、真冬の朝立ちで街頭演説をしていますと、手袋をしない両手は10分もすると痺れてきます。かじかんだ指が自然と震えてくるのです。ある時、見かねたのでしょうか、見ず知らずの中年の女性が温かいペットボトルのお茶を差し入れてくださいました。手がぬくもると同時に、その方の優しいお気持ちに触れて、思わず涙が出てきまし

た。役人時代には味わうことのできない経験です。その後、友人の紹介でご挨拶にうかがった保険代理店の奥さんが、お茶をくださった方とわかり、大感激。心からお礼を申し上げます。以来、ご主人共々すっかりお世話になっています。一人前の政治家になるためには、このような経験の積み重ねが必要だと痛感します。

しかし、それだけでは、政策がお留守になってしまいます。そもそも正確な情報を手に入れるだけの時間の余裕がないのです。党本部から送られてくる各種の政策パンフレットですらスミからスミまで目を通せない状況です。主な情報源は月に2回程度上京する際に、永田町や霞が関で耳学問することや、これまで付き合いの深かったいろんなシンクタンクの関係者から、各種レポートを無料でメール転送してもらうことです。レポートの概要を斜め読みして、興味のあるものは本文を読んだり、レポート作成者に問い合わせをして教えてもらうようにしています。それでも、

昔は本業としてやっていた自分で政策提言を書くようなことはなかなかできません。

今、民主党では、ローカルマニフェストを作る運動を応援するため、各県連で政治スクールを行っています。先日は京都の政治スクールに講師として招かれ、「中央政府における政策形成過程」と題した講義をしてきました。地方議会議員とその候補者が生徒さんで、熱心に聞いてくれました。

和歌山県連でも来年の統一地方選挙の公募内定者や友好関係にある地方議会議員を対象に政治スクールを開催する予定です。慶応大学の上山信一教授や早稲田大学の北川正恭教授などをお願いして、私のみならず、和歌山の民主党関係者の政策能力に磨きをかけていきたいと思います。

政策とドブ板は車の両輪です。両方を兼ね備えなければ良い政治家にはなれません。



京都政治スクールでの車座懇談会にて、
仙谷由人衆議院議員(右から2人目)と共に

